

# 思いはせ 届け演奏

東日本大震災の被災地に思いをはせる「第3回絆コンサート&フォーラム」が23日、北区奉還町のオルガホールであった。震災で津波の被害を受けた岩手県大槌町出身で、東京で音楽を学ぶ台隆裕さん(19)らが参加。台

さんは被災体験を話し、「1年に1度ももいい。被災地のことを思い出して」と語りかけた。

台さんは、震災で全壊した大槌町の自宅や津波に浸水した町の写真を示しながら当時の記憶をたどった。現在、町では津波をせき止めるための防潮堤の建設計画が進んでいる。防潮堤は高さ14・5メートル、台さんは「町の湾

はすべて防潮堤で囲まれている。町から海が見えないことだと思おう」と説明。「と声をつまらせた。でも寂しいけれど、津波を見てから海を見るのが怖い」という人も

町民が亡くなった。僕はその人たちのために音楽をやりたい。僕の演奏が、人々が被災地のことを思い出すきっかけになれば」と語った。

## AMD A 被災地へ支援交流

被災地でボランティアをした県内の高校生や大学生による発表もあった。その後のコンサートでは、大槌高と交流のある就実中・高吹奏楽部が台さんと一緒

に演奏。会場も手拍子で盛り上がった。「絆コンサート&フォーラム」は、震災以降、東北に拠点を置いて支援を続けるNGO

「AMD A」(北区伊福町3)が主催。昨年は大槌町で開くなど、被災地と岡山の交流の場となっている。

【五十嵐朋子】



就実中・高吹奏楽部と一緒にトランペットの音色を披露した台さん  
— 北区奉還町のオルガホールで

# 東日本大震災